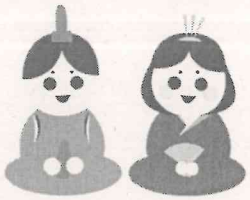
2015．3．12

今、ここから

NO.91
新庄市教育委員会
教育相談室

平成２６年度の相談室活動を振り返って



（1） シャイニングクラス（適応指導教室）

４月１４日（月）の学級開きは２名でのスタートでしたが、まもなく５名に増え、夏休み明けから９月にかけて３名の３年生が加わったので、今年度は最大８名の通級生とかかわりを持ちました。大人数での体験活動や体育は賑やかで楽しそうでした。８名のうち学校へ復帰した生徒は１名、残念ながら参加が途切れてしまった生徒も１名おりますが、通級している６名（いずれも中学生）は週何日か登校している生徒がほとんどで、学校と全くつながりがない状況の生徒はいません。２月末の学習シートには「休みがちだった月曜日に参加できるようになった」、「嫌なことにも自分から挑むようになった」、「自分の気持ちを言えるようになった」など成長が見て取れます。

（2） 教育相談活動　（２月末現在）

相談内容	件数（前年比）割合%
① 学業生活（学習・生活）	５３（－2）32.1%
② 不登校	４１（＋15）24.9%
③ 自立支援（中卒以上）	５１（－64）30.9%
④ 学校・教育（意見・要望）	３（－1）1.8%
⑤ その他	１７（－12）10.3%
計	１６５（－64）100%

２月末現在の相談件数は左の表の通りです。今年度からリスタート関連の相談対応が青少年指導センター（社会教育課内）に移管したこともあり、全体の相談件数は大幅に減少しました。増加した項目は不登校関連の相談です。今年度は通級生の保護者や教員の情報共有・情報交換の来室も多く好ましい傾向にあると捉えています。

主な相談内容の概要は以下の通りです。

① 学業生活相談：　児童の問題行動（乱暴な行為）に対する指導が保護者に理解されず対応に苦慮しての相談、ＬＩＮＥでのトラブル（仲間はずし）相談、単身赴任の父親が反抗的な息子の対応に悩む母親へのアドバイスを求める相談、目標を見失い悩む高校生を持つ保護者の相談等。

② 不登校相談：　シャイニング入級に関する保護者の相談、不登校生を抱える保護者の悩み相談、登校しぶり生徒への対応相談、高校へ進学したが適応できず中退を考えている保護者の相談等。

③ 自立支援相談：　中学校時代のいじめを引きずっている成人女性の相談、高卒の若者が精神の安定を求めての来室、高校中退者の就職相談等。

④ 学校・教育（意見・要望）：　学校教員の指導に対する不満相談等。

⑤ その他：　障がいを持った子の就学相談、集団生活に適応できるか心配する保護者の就学相談等。

（3） 気楽に話し合う会

今年度は延べ２４名の保護者の皆様にご参加をいただきました。月別参加人数は表の通りです。

月	4	6	8	10	12	2
参加者数	2	6	3	4	4	5

巣立ちの一場面は ？　～３月６日シャイニングクラス「修了の会」～

６日(金)定刻前から通級生６人がそろいました。今日はこのクラス最後の日です。話し合い活動で企画した“修了の会”のぶっつけ本番。この間深くかかわってくださった６人の方々をお客さんに迎え、自分たちの巣立ちを見ていただくささやかな会の始まりです。

２年ないしは半年ほど過ごしたクラスでの思い出、高校での目標、お互いのかかわりの中での成長などを、それぞれが発表しました。文にしていない生徒はたどたどしく、でも精一杯考えた言葉なのでしょう。肯定的に自分を振り返る姿が見えて、周囲から温かい拍手が送られました。次いで、出席された方々に、お礼の言葉とともに花一輪のプレゼントがありました。

「周囲に助けを求めながら元気で新しい世界に飛び出せ」「自分を“オーレッ！”と励ましたり褒めたりすることが大事」「種を蒔くといつか必ず実をつける」「本当に大切なものは目には見えないんだ（サン・テグジュペリ“星の王子様”より）」「辛いことや苦しいことは一生ある。それも自分の歩む“道”」等々、出席者からは心に染み入る餞の言葉を返して頂き、胸が熱くなりました。それぞれすっきりした顔でお客さんを送り出し、とても満足気でした。

意外や意外いつの間に準備したのでしょう？ 私たち相談員にも、紅白の紙で作ったブーケと可愛らしい色紙への寄せ書きのプレゼントがあり、感激しました。

そんな午前のセレモニーも終了し、生徒たちへの学習シートを読みました。彼らが目にすることもないであろうシートに、「印象的ですばらしい出会いと楽しい思い出をありがとう」と、最後のコメントとして記したのでした。

教科指導の伊豆倉先生からの激励（修了の会）

今年度最後の「気楽に話し合う会」　～ 2月20日（金）に ～

「気楽に話し合う会」は偶数月の第３金曜日１９時～２１時、わくわく新庄にて開催しております。２月２０日には、今年度最後となる第198回目の「気楽に話し合う会」が行われました。

自分のお子さんが登校を渋り出し、欠席が続き始めた時、保護者の方は、「まさか、ウチの子が…」と、かなりのショックを受けます。本人も家族も周囲の視線を気にするあまり、プレッシャーに押しつぶされそうになります。そんな時、同じような悩みを抱える保護者同士、また、大変な時期を切り抜けてきた先輩保護者との忌憚のない語り合いは、本当に大きな救いとなるようです。

今回出席したある保護者は、子どもが学校に行かなくなった時の親の想いや子どもの様子、受験に向けての取り組み等を語ってくださいました。また、今後の「気楽に話し合う会」やシャイニングクラス（適応指導教室）のあり方についても意見を述べられました。

初めて参加された保護者が帰り際に発した「体験談を聞いて、肩の荷が軽くなりました。」の言葉が、この会が長く続いている所以だと改めて気づかされました。

最後に、髙橋学校教育課主査が、初めて参加された保護者に激励を込めて、次のような言葉で締めくくりました。

子ども達の今は蛹（さなぎ）の状態です。いつか殻を破って出てくるのは確実ですが、焦って無理にいじれば壊れてしまいます。外からは見えませんが蛹内部は目まぐるしく成長しています。そして、消えそうではありますが何かしなければならないという小さな火種を誰もが持っています。今登校を渋っていたとしても大丈夫です。今日お母さんがこの会に参加されたことは、消えそうな小さな火種に着火したと言えるからです。子どもはきっと変わります。消えそうな小さな火に時々着火してあげましょう。

不登校生を抱え悩まれている保護者の皆様には、シャイニングクラス（適応指導教室）や「気楽に話し合う会」の存在をご理解いただき、また活用してほしいと思っています。

どうぞ、新庄市役所東庁舎２階教育相談室に足をお運びください。

畑の先生五十嵐さんからは、子どもたちに色紙が贈られました。「人の一生は重荷を負うて遠き道を・・・（家康の格言）」（修了の会・3/6）

あ と が き

川崎市の痛ましい事件後、なぜ大人は“サイン”に気づけなかったのかが話題になっています。大人の理論は「どうして相談してくれなかったのか。」裏を返せば「相談してくれていれば何とかなったのに・・・」となりますが、正論を伝えるだけの大人の話は、子どもの社会では何ら解決に結びつかないことを彼らは見抜いているのでしょう。子どもたちが安心して相談し、適切に対応できる大人になっているか。弱音を吐き出せる、選ばれる大人になっているか。日常の中でＳＯＳを出せる関係になっているかどうかが問われています。常日頃から声をかけ、どうでもいいような話をしているかどうかが大切なのだと思います。

今年度も最終号になりました。感謝いたします。

教育相談連絡先
○ ダイヤルなんでも相談
ＴＥＬ　２３－７２６６
○適応指導教室（シャイニング）
ＴＥＬ　２２－２１１１
（内線　４４５、４４８）
林、小野、鈴木が担当です。